

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	横浜市中部地域療育センター保育所等訪問支援事業所			
○保護者評価実施期間	令和6年11月18日		～	令和6年12月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数)	7
○従業者評価実施期間	令和6年11月18日		～	令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月18日		～	令和6年12月13日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	25	(回答数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月7日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医師・心理師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士 ソーシャルワーカー・保育士等多様な職種が携わっていること です。	お互いに情報を共有できるようにミーティングを設け 日常的なコミュニケーションを図るように心がけています。	職員間でのカンファレンス等の機会を適宜設けます。
2	各職種の専門性が高くそれぞれの専門性を生かしてアプローチ できることが強みです。	お子さんの様子や園の状況に合わせて担当となる職員を決めて います。また他職種スタッフが保護者や園のニーズや環境に合 わせて同じお子さんに対して訪問することもあります。	外部研修や職員勉強会等を通し職員間の知見を深めます。
3	チームで協力しながら地域連携を進められることが強みです。	お互いに情報を共有できるようにミーティングを設け 日常的なコミュニケーションを図るよう心がけています。	職員間の地域情報や課題の共有及び地域への研修等を行い連 携を深めています。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者やお子さんからの相談や園からのニーズ等に対して即時 かつ柔軟に対応することができていないことが弱みです。	療育センターを利用される方が増えている状況の中で業務に優 先順位を決めざるを得ない状況があります。	直接訪問や面談などは難しい状況ですが、電話での相談は適 宜行うようにしていきます。また、療育センター全体とし て対応をしていけるよう体制を整えていきます。
2	お子さんや園の状況に合わせて、それぞれの園の環境等に即し た個別的なアプローチをすると課題です。	それぞれの園における物理的環境や人的環境は様々です。 その中で誰もが安心できる環境を築いていくことは時間を要す ることだと実感しています。	何よりも継続的に取り組んでいくことが大切と考えます。 お互い信頼できる関係を築いていけるように努力していきま す。また、保護者にも納得して頂けるように園での取り組み を伝えていきます。
3	療育センターの取り組みやサービスについて地域や利用者にと く発信できていないことが課題です。	利用者の皆さまや外部に向けた発信ツールが少ないと感じてい ます。また療育センターのサービスについて十分な説明がなさ れていないことがあるかもしれません。	利用者の皆さまや地域に向けたSNSの活用を積極的に進めて いきます。外部に向けた見学会や研修など対象にこだわらず に行ってまいります。またサービスについての説明を丁寧に行 ってまいります。